



殺ダニ・殺虫剤

# サフオイル<sup>®</sup>乳剤

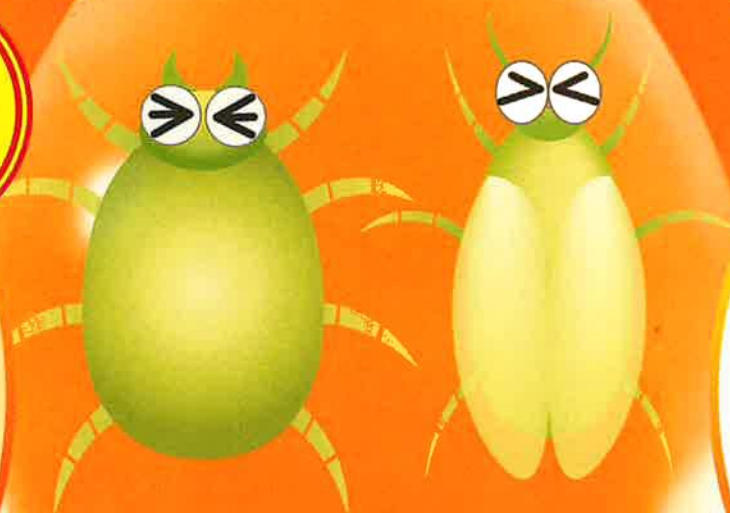
Suffoil

調合油乳剤

一歩上の物理防除剤  
残効性・殺卵効果もあるんです！

有機JAS  
使用可能農薬

5ℓ  
大型規格  
発売中!!



天然物由来  
紅花油・綿実油

## サフオイル乳剤の特長

- 物理的に作用する剤であり、抵抗性が発達するおそれが殆どないので連続散布が可能です。
- 既存の薬剤に対して抵抗性の発達したハダニ類及びコナジラミ類にも効果を発揮します。
- ハダニ類への残効性が認められています。
- 殺卵活性も認められ、ハダニ類及びコナジラミ類の全発育ステージに対して有効です。
- 天敵や有用昆虫に対する影響が小さく、IPM(総合的病害虫管理)に適しています。
- 有効成分は食用の植物油なので、安心して収穫前日まで散布可能です。
- 日本農林規格(有機JAS)別表2の有機農産物に使うことのできる農薬(調合油乳剤)です。





# サフオイル乳剤

Suffoil

調合油乳剤

・有効成分：調合油(サフラワー油及び綿実油の含量として)97.0%

・毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指して言う通称)

・規格：1ℓ×12本/ケース、5ℓ×4本/ケース

## 適用病害虫の範囲及び使用方法

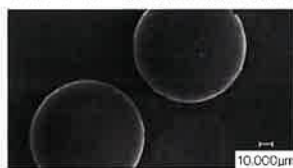
2024年3月現在の登録内容

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量(10a当り)	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	調合油を含む農薬の総使用回数
かんきつ	ミカンハダニ	500	200~700ℓ	収穫前日まで	-	散布	-
	サビダニ類	300					
野菜類 (いちご、トマト、ミニトマトを除く)	ハダニ類 アブラムシ類	300~500	100~500ℓ	収穫前日まで	-	散布	-
	チャノホコリダニ コナジラミ類 うどんこ病	300					
いちご	アブラムシ類	300~500	-	定植前	-	2~10秒間苗浸漬	-
	ハダニ類						
	チャノホコリダニ コナジラミ類 うどんこ病	300					
トマト ミニトマト	ハダニ類 アブラムシ類	300~500	100~500ℓ	収穫前日まで	-	散布	-
	チャノホコリダニ トマトサビダニ コナジラミ類 うどんこ病	300					
とうもろこし	ハダニ類	300~500	-	発生初期	-	-	-
花き類・観葉植物(きくを除く)							
きく		300	-	定植前	-	10秒~1分間挿し穂浸漬	-

## 殺卵活性のメカニズム

引用：2020年Engineering in Life Science誌  
武田ら(東京農工大学)論文

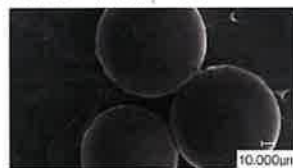
サフオイル乳剤は、卵表面およびその周囲の糸に膜をはったように付着する。



蒸留水



サフオイル乳剤(300倍希釈)



A剤(300倍希釈)

サフオイル乳剤が膜状に付着後、殺卵がどのように行われているか？



殺虫活性がある上に、殺卵活性があることで次世代に繋がせない。

### 上手な使い方

- 対象病害虫の発生初期に散布してください。
- 葉の表裏にムラなくかかるように十分な液量を散布してください。
- 殺卵活性が短いので、病害虫の発生量が多い場合または周辺圃場からの飛び込みが多い場合には数日間隔(5~10日)で連続散布してください。
- 乾きにくい条件下では散布を控えてください。
- 農着剤の加用をお勧めします。
- 農着剤の種類によっては葉害を助長するおそれがあるので事前に葉害の有無をご確認ください。
- いちごに使用する場合には、オーソサイド水和剤80及びテランフロアブルとの混用は避け、近接散布する場合は少なくとも28日以上あけてください。28日以上あけても下葉には葉害を生じるおそれがあるので注意してください。

### 使用上の注意事項

1. 使用前には必ず容器を振り、使用量にあわせ液量を調整し、使いきってください。
2. 散布液の調製に際してはよくかき混ぜ、散布液調製後は、攪拌しながらできるだけ速やかに散布してください。
3. 葉の表裏へいねいに散布してください。
4. 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法にあわせて調節してください。
5. 残効性が短いため害虫の増殖や圃場外からの飛び込みが活発などときには、数日間隔で連続散布するか、他剤との輪番で使用してください。また、害虫の発生初期に散布してください。
6. 軟弱徒長苗では葉害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
7. 高温時の散布は葉害を生じるおそれがあるので使用をさけてください。
8. カーネーションに使用する場合、葉表面のブルームが溶脱する等の葉害を生じる場合があるので、初めて使用する場合は使用者の責任において事前に葉害の有無を十分に確認してから使用してください。
9. きくの挿し穂浸漬法に使用する場合、葉害を生じるおそれがあるので高温時の使用をさけてください。
10. 空容器は圃場などに放置せず、3回以上洗浄し、適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
11. 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
12. 適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に葉害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
13. 面浸漬の際は不浸透性手袋などを着用してください。

【貯蔵上の注意事項】直射日光を避け、食品と区別してなるべく低温で子供の手の届かない場所に密栓して保管してください。

● 使用時にはラベルをよく読んでください。 ● 本剤は小児の手の届かないところに保管してください。 ● ラベルの記載以外には使用しないでください。 ● 空容器等は燃やさないで処分せず、適切に処理してください。 ● 燃焼日誌を記録しましょう。